

つかむ

調べる

まとめる

深める

～武士の館の資料をもとに、気づきを共有しながら学習問題をつくる活動～

1. 小单元名『武士の政治が始まる』

(教科書：『小学社会 6 上』 p.38～46／学習指導要領：内容（1）ウ）

2. 小单元の目標

武士のくらし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物のはたらきや代表的な文化遺産を通して、武士による政治が始まったことを理解するとともに、それらにかかわる人物の願いやはたらき、代表的な文化遺産の意味について考えるようにする。

3. 小单元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
武士のくらし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物のはたらきや代表的な文化遺産に関心をもち、進んで調べようとしている。	武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の願いやはたらき、代表的な文化遺産の意味などについて思考・判断したことを適切に言語などで表現している。	武士のくらし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物のはたらきや代表的な文化遺産について、教科書や資料集などをもとに、調べている。	武士による政治が始まったこと、源頼朝が幕府を開き、武士の力が全国に及ぶようになったこと、元との戦いが影響を及ぼしたことなどが分かっている。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本学級には、社会科の学習を苦手としている子どもが多い。そのため、知識を覚えるためだけの歴史学習にならないように工夫する必要がある。つまり、学習経験を生かした論理的な思考だけでなく、当時の人々の心情を共感的に理解する感覚的な思考を生かした学習展開を構成することで、知的にも、情意的にも追究ができる問題解決学習を目指した。

(2) 教材について

本小单元では、「一所懸命」という言葉から土地（領地）の重要性を大事にしたい。土地（領地）は、衣食住の生活の基盤であり、武士としての地位の指標でもある。鎌倉幕府は土地を仲立ちとした「ご恩」と「奉公」の仕組みを活用して、主従関係を広げていったのである。この「ご恩」と「奉公」の仕組みをわかりやすく理解できるのが、1221年にあった承久の乱であろう。「いざ鎌倉」の精神で挙兵した御家人達は、結果として後鳥羽上皇軍の西国の領地をほうびとしていただくことができた。教科書では、p.43の「幕府をまとめた北条政子」で扱われているが、承久の乱も単元に組み入れながら、土地（領地）に着目させることで、鎌倉幕府の仕組みから元寇による終焉まで、歴史の流れが見えてくると考えた。

(3) 指導上の工夫・留意点

歴史学習は、資料の読み取りから学習を展開することが多く、資料活用能力に課題の見られる子どもの理解が進まない場合がある。そこで、本単元では映像資料を効果的に活用しながら、視覚的に学習の習熟を図ることを目指した。具体的には、NHKのデジタルコンテンツを随時活用し、短時間にまとめられた映像により、学習への理解を深め、追究意欲を持続させようと考えた。

5. 小単元の指導（総時数5時間）

時数	ねらい	○学習活動 ☆内容
① (つかむ)	武士の生活の様子、武士と貴族との違い、武士の思いや願いについて関心を持ち、学習問題を考え、表現する。	○資料「武士の館（想像図）」を見て、武士の生活の様子や館の様子、武士と貴族の違いなどについて話し合い、学習問題をつかむ。 ☆武士は貴族とは異なり、半農半武の生活をしながら、領地を守るために武芸に励んでいること。
① (調べる)	絵図や年表、地図などの資料から、平氏と源氏といった武士団が力をつけ政治を動かすようになったことを調べるとともに、源平合戦で源氏が平氏に勝利し、源頼朝が鎌倉に幕府を開いたことを理解する。	○資料から、武士が勢力をのぼしていった過程や、源平合戦により源氏が平氏を滅ぼしたことを調べる。 ☆平清盛を中心とする平氏が貴族に代わって政治を行うようになったが、貴族や武士の間では平氏の政治に対して不満をもつ者もいたこと。 ☆源頼朝を中心とする源氏は、平氏を倒す戦いを始め、弟の源義経の活躍もあって、平氏を破ったこと。
① (調べる)	鎌倉幕府が土地を仲立ちとしたご恩と奉公の関係で武士たちを従えたことを理解する。	○鎌倉の地図やご恩と奉公の関係図、「幕府をまとめた政子」（承久の乱）などの資料をもとに、鎌倉幕府の特色について調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ☆源頼朝は、土地を仲立ちとする「ご恩と奉公」の関係で御家人（武士）を従えたこと。 ☆承久の乱を鎮めた幕府は、西国の領地を得るとともに、その領地を御家人に「ご恩」として分け与えることで、さらに支配力を強めていったこと。
① (調べる)	鎌倉幕府が衰退した理由を元との戦いに関連づけて考え、元との戦いの後、「ご恩と奉公」で結びついていた幕府と武士の信頼関係が崩れていったことを表現する。	○資料「元軍との戦い」を中心に、元との戦いやその後の鎌倉幕府の様子について調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ☆武士たちは、戦い方が異なる元軍の集団戦術や火薬兵器などに苦しみながら、恩賞を得るために一所懸命に戦ったこと。 ☆幕府は、元寇で活躍した武士たちに新しい領地を与えることができなかったこと。「ご恩と奉公」の仕組みが崩れ、幕府と武士の信頼関係が崩れていったこと。

① (ま と め る)	武士の政治が始まったところから、元寇により鎌倉幕府が滅亡するまでを年表などにまとめ、鎌倉幕府は土地を仲立ちとする支配構造が特徴であったことを理解する。	○武士の出現から鎌倉幕府滅亡までを年表にまとめる。 ○ご恩と奉公の関係をまとめる。 ☆武士の政治が始まり、鎌倉幕府は土地を仲立ちとした「ご恩と奉公」の仕組みで武士たちを支配していたこと。
-------------------------	---	---

6. 本時の指導（第1／5時）

(1) 本時のねらい

武士の館を、貴族の屋敷と比較して見ることを通して、武士の生活の様子や武士が自分の領地を守るために常に戦いに備えていたことに気付き、武士の世の中についての問題意識を高める。

(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

教科書 p.32（貴族の屋敷）と p.38～39（武士の館）のイラストの比較が、本時の活動の中心である。子どもは、武士の館のイラストから、どんな人がいるか、何をしているか、建物や周りの様子はどうかなど、たくさんことに気付くだろう。しかし、それは資料から見つけたことの羅列にすぎない。本単元のねらいである「武士の世の中の様子」に着目させるためには、貴族の世の中の様子を**比較の対象として提示**し、時代が大きく変わり、武士が力をもつ世の中になったことに気付かせる必要がある。そのために、貴族の屋敷を提示し**違いに目を向けさせる**ことで、武士の暮らしと戦いは切っても切れない関係にあったことに気付かせたい。

二つのイラストを、実物投影機やプロジェクターで大きく映したり、拡大コピーして黒板に貼ったりして、それらのどこを指して発言しているのかを確認しながら、**気付きの共有化を図る**ことができるようにして学習を展開する。

(3) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	○武士についてのイメージを広げる。 T：武士とはどんな人だと思いますか？ C：戦う人。戦士。 C：さむらい。 C：刀で戦う人。 ○本時の課題を提示する。 T：本時の課題「武士はどのような暮らしをしていたのだろうか？」について資料を通して考えましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;">武士はどのような暮らしをしていたのだろうか？</div>	◇生活経験から感じている武士のイメージを引き出し、本時の学習課題につなげていく。 ◇既習として貴族の生活を想起させると、貴族と武士の生活の違いに目が向く。

<p>25</p>	<p>○「武士の館」と「貴族の屋敷」を提示する。 T：武士の館と貴族の屋敷を比べ、違いを見つけましょう。</p> <p>建物のつくりや大きさ</p> <p>C：武士の館は貴族の屋敷に比べて質素。 C：広さも貴族の屋敷よりは小さいように見える。 C：塀や堀で囲まれている。</p> <p>庭や周りの様子</p> <p>C：館の周りでは水田が広がっている。 C：館の中でも野菜を育てている。 C：貴族の屋敷と違い、池や橋などはない。 C：戦いに使うために馬を飼っている。 C：外では、馬に乗りながら弓矢を放つ練習をしている。</p> <p>人の様子</p> <p>C：物見櫓から人が見張っている。 C：鎧を着けている人がいる。 C：庭で遊んでいる人はいない。武芸の訓練や武具の手入れをしている。</p>	<p>◎教科書 p.32「貴族の屋敷」、p.38～39「武士の館」</p> <p>◇一人一人の気付きを共有するために、屋敷と館の想像図を大きく印刷したり、プロジェクターで大きく投影したりするとよい。</p> <p>◇「建物のつくりや大きさ」・「庭や周りの様子」・「人の様子」の3つに分けて板書する。</p> <p>◆資料を通して、武士の生活の様子を貴族の屋敷との比較の視点から読み取っている。 (技能／ノート)</p>
<p>10</p>	<p>○武士の暮らしの特徴について考える。 T：武士の暮らしにはどのような特徴がありますか？ C：武芸に励むなど戦いに備えている。 C：一族や家来とともに、領地を守る生活をしていた。</p> <p>○「一所懸命」という言葉を紹介する。 T：武士の暮らしを象徴する言葉に「一所懸命」があります。これは、「領地を守るために命をかけて戦う」という意味です。</p> <p>○単元の学習問題を提示する。 T：この単元では「武士が現れて、世の中はどのように変わったのか。」ということについて、学習していきましょう。</p>	<p>◆資料から読み取ったことを根拠に、武士の暮らしの特徴について考えている。 (思・判・表／ノート)</p> <p>◇単元を通して、「土地（領地）」がキーワードになるので、「なぜ命をかけてまで領地を守るのか」という問題意識を引き出したい。</p> <p>◇教科書 p.39 の年表を用いて、約700年間、武士の世の中が続いたことを伝える。</p>